



## 出所者と社会の架け橋として—

### 篤

志面接委員という言葉をご存じですか？ 今回は、今年3月に閉庁した黒羽刑務所で篤志面接委員として21年間活動し、昨年、藍綬褒章を受章した沼尾さんにお話を伺います。

### 略歴を教えてください

足尾で育ち、民間企業に定年まで勤めた後、職業能力開発フロンティアを経て、雇用・能力開発機構で雇用総合相談員として雇用・能力開発セミナーなどを行っていました。その後、法務省からの委嘱を受け、平成13年に黒羽刑務所篤志面接委員になりました。



沼尾さんを行うセミナー

### 篤志面接委員とは？

「篤志面接委員制度」

は昭和28年に設けられました。刑務所などの矯正施設で、被収容者が抱える問題の解決や、心情の安定のために、専門知識や豊富な経験を持った民間人が適切な助言や指導を行うものです。現在、全国で約1,500人の面接委員が活動しています。

### 活動内容は？

今年3月の閉庁まで、

黒羽刑務所で月2回の釈放前講話と個人面接相談を行ってきました。

講話では、前職の経験を生かし、主に被収容者の釈放後の就労について、労働市場の情報やビジネスマナーの心構えなどを、これまでに約6,100人の受講者に話してきました。講話を始める前に小喃をした「受講者の集中力が途切れてきたなあ」と感じたときは話題を変えて話に緩急をつけたりと、受講者がリラックスしつつ、集中して受講できるよう工夫しています。

個人面接相談では、面接を通して、自分自身と向き合い、自身の価値観・人生観を再発見し、自己理解を深め「やればできる」という自己効力感を持って社会復帰できるように導くことに努めています。

### 活動で感じたことは？

出所者の再犯防止のためには、出所者の就労が不可欠です。仕事が見つけられないと、社会的に孤立し、孤独になり、再犯につながってしまうケースがあります。出所者の就労のためには、被収容者自身の矯正も大切ですが、受け入れ側である私たちの、矯正施設や出所者に対する偏見などを無くすることも重要だと感じています。

出所者の再犯を防止し、安全・安心な社会をつくるためには、出所者を社会から排除するのではなく、私たち一人ひとりが、矯正施設の実態

や、出所者の社会復帰の問題に関心を持つことが大切です。

### 今後の活動は？

黒羽刑務所の閉庁に伴い、今年4月から喜連川社会復帰促進センターへ転籍し、5月から釈放前講話の活動を再開しました。家族に支えてもらいながら、できるだけこの活動を続けていきたいと思っています。

出所者の出所の生活を把握することは難しいですが、これからも多様化する働き方を踏まえ、出所者が仕事に就き、二度と罪を犯すことなく、健全な社会生活が送れるよう教え導いて、改善更生に貢献していきたいです。



篤志面接委員が持つ手帳

### ♡インタビューを終えて

インタビューの中で「人の気持ちを扱う活動なので、ゴールはありません。ゴールがないからこそ、常に向上心を持ち続けられる活動であり、大きなやりがいがあります」と話すときの、沼尾さんのひたむきな眼差しがとても印象的でした。

「篤志面接委員」を初めて耳にした方も多くと思いますが、出所者を取り巻く状況や課題などについて、少しでも知るきっかけにしてもらえればと思います。